

25日川上村

川上村村長 栗山忠昭 様
議長 泉谷隆夫 様
副議長 松本博行 様
局長 松本勝則 様
かわかみ車中 上田一仁 様

川上村はその名前のように、吉野川の最上流にあります。

吉野川の豊かな水は、ゆっくりと時間を掛けて流れ出すことによって保たれています。川上村は吉野川の源流として自らその役割を果たして平成8年に「川上宣言」として発信しました。近年、日本のあちこちで森林の崩壊が起こっています。今日の異常気象にともなう“ゲリラ豪雨”が大きく起因していると思われるものの、それだけではありません。暮らしが山村から遠ざかり、人の心や気持ちが源流や森林から離れつつあることも、その要因の一つと考えます。山村地域だけの問題でなく、言うまでもなく下流域の生活を奪い、都市機能をマヒさせる恐れがあります。源流を守り、国土を保全することは今や“国民的課題”であり、私たちはこのことを強く訴えていかねばなりません。

川上村は面積 269.26 平方キロ（八女市の56%）

世帯数 732 世帯 人口 1,222 人

田畑がなく山林が全面積の95%を占める村です。500年以上の昔、室町時代から続く吉野林業の中心地にあり、緑を育みながら水の恵みを下流域に届けてきました。また最源流部の原生林を740ha購入し保全するなど水源地を守り続けています。

村の外郭組織である「かわかみ社中」により多くの林業関係の活性化と人材育成に努力されてきました。

吉野かわかみ社中とは

「吉野かわかみ社中」は、500年続いた吉野林業を次の500年につなぐため、川上産材の需要供給の安定、人材確保と後継者育成につながるように、川上村産吉野材の一貫した供給体制と情報拠点づくりを進める団体です。川上村の内にとどまらず、外にも協力の輪を広げ、木を育てる人、伐る人、売る人、挽く人、建てる人、使う人…といったサプライチェーンづくりを取り組んでいます。

26日

奈良県吉野町

吉野町長 中井章太 様
観光課長 中尾 勇 様
課長補佐 谷村延彦 様
金峯山寺 田中岳良 様

吉野町は、昭和31年に旧吉野町、上市町、中荘村、中龍門村、国樸村、龍門村が合併して生まれました。奈良県の中央部、吉野郡の北部にあって、町の中央部を東から西に吉野川が流れています。町域の一部は吉野熊野国立公園、吉野川・津風呂県立自然公園に指定されており、全国的には吉野山の桜で有名です。春には豪華絢爛しかも気品に富む桜が咲き乱れ、人々の心を魅了します。また、「吉野」は、古くは古事記、日本書紀、万葉集にも記述があり、歴史の大きな舞台に姿を現してきました。後に天武天皇となった大海人皇子が壬申の乱の前に吉野に身を潜め、平家を討った源義経が兄頼朝に追われて吉野に逃げ込み、北条幕府を倒して建武の中興を遂げた後醍醐天皇が南朝の拠点として選んだのも吉野です。金峯山寺、如意輪寺、吉野神社と住職さんを訪問し、後醍醐天皇の足跡と懐良親王と良成親王の九州征伐の思いなど、八女市とは所縁ある天皇、吉野町を視察してきました。

吉野町 人口 2656 世帯 6229 人
面積 95 平方キロ（八女市の20%）

所見

川上村 耕地がなく、そのほとんどを山林面積が占め、急峻な山々はそこで生業をなす人々の生活、確かに山の産物でなければ、産業が成り立たない所である。原木栽培と原木生産、木材市場の価格も八女市場の倍もしている現状は、原木生産過程による緻密な計画と地域業者の集合体（かわかみ社中）で一貫した地域形成をしている。

吉野町 八女市との南朝歴史の交流は、形骸化した交流ではいけないと感じる、吉野に行けば、偉大なる将軍と時代背景の中でどのような歴史があったのか、観るべき姿の多さに驚かされる。

この視察を通じ、より後醍醐天皇に近づくことが出来たと思っている、市にも南朝の事柄を多くの市民に広げる広報をしなければいけないと思った次第でありました。

「みよしのの、吉野の奥の、遠き世を、一日も、思い出ぬ日はなし」

良成親王が思い描いたであろう吉野の姿を詠んだ詞が如意輪寺にありました。（驚愕）